

プラトン

2018 年本試

問 8 次のア～ウは，人間の欲望をめぐる先哲たちの洞察についての記述である。
その正誤の組合せとして正しいものを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

18

- ア ブッダによれば，人間が所有欲などの欲望から離れられない原因は，自己という不変の存在を正しく把握していないことにある。
- イ プラトンによれば，不正な行為が生まれる原因は，魂のうちの欲望的部分が，理性的部分と気概的部分を支配してしまうことにある。
- ウ 朱熹(朱子)によれば，人間が私欲に走る原因は，先天的にそなわっている理が，気的作用によって妨げられていることにある。

- ① ア 正 イ 正 ウ 誤
- ② ア 正 イ 誤 ウ 正
- ③ ア 正 イ 誤 ウ 誤
- ④ ア 誤 イ 正 ウ 正
- ⑤ ア 誤 イ 正 ウ 誤
- ⑥ ア 誤 イ 誤 ウ 正

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 8	18	④	3

2017 年追試

問 3 知恵について述べた次の文章を読み、文章中の **a** ～ **c** に入れる語句の組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。 **13**

ギリシア哲学では、知恵が徳との関係で多様に論じられている。例えば、ソクラテスは、「人間は万物の尺度である」と主張した **a** のような、知者をひょうぼう標榜するソフィストと、徳について問答することで、真の知恵を求めた。さらに、プラトンは、『国家』において理想的な国家のあり方を問うなかで、魂の徳を論じた。そこでは、知恵が、節制・ **b** ・正義と並ぶ四元徳の一つとして、統治者に不可欠なものであるとされた。アリストテレスもまた **c** において、人間の優れた働きである、真理の観想や推論的な学問と一緒に、知恵を知性的徳の一つに数えた。このように、真の知恵を求める愛としての哲学は、人間の徳の探究としても、議論の深まりをみせたのである。

- ① a プロタゴラス b 勇 気 c 『ニコマコス倫理学』
- ② a プロタゴラス b 勇 気 c 『クリトン』
- ③ a プロタゴラス b 寛 容 c 『ニコマコス倫理学』
- ④ a プロタゴラス b 寛 容 c 『クリトン』
- ⑤ a ゴルギアス b 勇 気 c 『ニコマコス倫理学』
- ⑥ a ゴルギアス b 勇 気 c 『クリトン』
- ⑦ a ゴルギアス b 寛 容 c 『ニコマコス倫理学』
- ⑧ a ゴルギアス b 寛 容 c 『クリトン』

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 3	13	①	3

2015 年本試

問 5 正義の捉え方を述べた次の文章を読み、文章中の **a** ～ **c** に入れる語句の組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。 **5**

正義は、古代ギリシアにおいて知恵や **a** とならぶ四元徳の一つに数えられ、よき政治秩序に必須とされた。しかし、正義とはその時々^の強者の利益にすぎないという考え方もまた、すでに古代ギリシアに登場している。今日の民主社会においても、民主主義が、多数決による支配を安易に意味するならば、正義とは、多数派の意見の別名となりかねない。19 世紀のミルは、 **b** において、またミルに影響を与えたトクヴィルは、『アメリカのデモクラシー』において、画一的な世論が反対意見を封殺する「多数派の専制」について論じている。こうした見方は、大衆社会が全体主義の温床となったと捉える 20 世紀のアーレントにも受け継がれた。他方で、正義を単なる多数派の意見に還元しないためにも、正義を普遍的原理として理論化する試みがなされている。例えば、ロールズは、 **c** の考えを新たに活か^いしつつ、基本的な財の分配をめぐる平等の原理として正義を捉え直し、現代思想に大きな影響を与えた。

- | | | | | | | |
|---|---|----|---|-------|---|-------|
| ① | a | 友愛 | b | 『正義論』 | c | 功利主義 |
| ② | a | 友愛 | b | 『正義論』 | c | 社会契約説 |
| ③ | a | 友愛 | b | 『自由論』 | c | 功利主義 |
| ④ | a | 友愛 | b | 『自由論』 | c | 社会契約説 |
| ⑤ | a | 節制 | b | 『正義論』 | c | 功利主義 |
| ⑥ | a | 節制 | b | 『正義論』 | c | 社会契約説 |
| ⑦ | a | 節制 | b | 『自由論』 | c | 功利主義 |
| ⑧ | a | 節制 | b | 『自由論』 | c | 社会契約説 |

問7 次の文章は、プラトンの著作中の人物が、哲学的対話における言葉の価値を、書かれた言葉と対比しつつ述べたものである。この文章の説明として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 17

書かれた言葉は、あたかも実際に何事かを考えているかのように見える。だが、もし君が、そこで言われている事柄について質問すると、いつでも一つの同じ合図をするだけである。それに、どんな言葉でも、ひとたび書き物にされると、それを理解する人のところであろうと、まったく不適當な人々のところであろうと、転々とめぐり歩く。そして、誤って扱われたり、不当に罵られたりしたときは、書いた本人の助けを必要とする。……これに対し、人が対話の技術を用いながら、ふさわしい相手の魂のなかに、知識とともに植え付ける言葉は、自分自身のみならず、植え付けた人をも助ける力をもつ言葉であり、また、実を結ばぬままに枯れることなく、一つの種を含んでいて、その種からは、また新たな言葉が新たな心のなかに生まれ、かくて、常にその命を不滅に保つことができるのだ。そして、このような言葉を身に付けた人は、人間に可能な限りの最大の幸福を、この言葉の力により勝ちとるのである。

(『パイドロス』より)

- ① 書かれた言葉は、多様な読者に対して十分に筆者の考えを伝えることができないが、対話において適切な仕方で語られる言葉は、どのような対話者の魂をも育て、自ら考えることへと導いていく。
- ② 書かれた言葉は、内容を理解できない読者に読まれると、言葉本来の力が活かされずに終わる可能性があるが、対話を通じて育まれる言葉は思考する力となり、それを語る人々を支えるとともに、さらなる対話を導く。
- ③ 書かれた言葉は、文字として明確に表されているので、筆者の考えを正しく伝えるが、対話において語られる言葉は、対話の相手によって変化するので、話者の考えを正確に伝えることはできない。
- ④ 書かれた言葉は、まったく変化しないため、時とともに説得力を失うが、生きた人間同士がかわす対話においては、それぞれの時代の価値観に即した内容が語られるので、説得力ある言葉が常に生み出されていく。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 5	5	⑧	3
第 2 問	問 7	17	②	3

問 4 人々がともに生きることについて先哲たちが説いた教えの記述として**適当でないもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。 14

- ① プラトンは，国家を構成する統治者階級，軍人階級，生産者階級がそれぞれ知恵の徳，勇気の徳，節制の徳を発揮するとき，正義が成立し，調和のとれた理想国家が実現すると主張した。
- ② 仏教では，在家信者がひとしく守るべき五つの戒めが定められた。そのなかには，人のものを盗んではならないという「不偷盗戒」や，人に嘘をついてはならないという「不妄語戒」などが含まれる。
- ③ ムハンマドは，血縁関係に基づく従来のアラブの部族社会に対して，信仰によって結ばれたイスラーム共同体の構築を唱えた。ウンマと呼ばれるこの共同体は，部族や民族の枠を超えて開かれている。
- ④ ユダヤ教の律法学者たちは，共同体の内部において，律法を守りたくても守れないでいる病人や貧しい人，徴税人たちを差別せず，彼らに対しては，律法を遵守しなくても救われると説いた。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 4	14	④	3

2014 年追試

問 4 知ることと社会的実践との関係についての記述として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。

14

- ① ムスリムは、ジハードを義務づけられている。ジハードとは、聖典を通して知られる神の意志に基づいて、神の定めた正義を世界に広めるよう奮闘することである。
- ② 王陽明は、朱子学を知性偏重であると批判して、知ることはいの始めであり、行いにより知ることが完成する、と説いた。この考え方は居敬窮理と呼ばれ、社会を導く知識人が実践すべきものとされる。
- ③ ガンディーは、自らの政治運動において「真理把持」を意味するサティヤグラハの理念を掲げた。そこで重視されたのが、仏教やジャイナ教でも共通して説かれたアヒンサー(不殺生)の実践である。
- ④ プラトンは、『国家』において、知恵の徳をそなえた哲学者が、防衛者階級・生産者階級を治めることを理想の統治のあり方とした。この体制は哲人政治と呼ばれる。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 4	14	②	3

2013 年本試

問 8 愛をめぐる様々な思索について述べた次の文章を読み、文章中の **a** ~ **c** に入れる語句の組合せとして正しいものを、下の①~⑥のうちから一つ選べ。 **19**

プラトンの説く愛(エロース)が、具体的な美への憧れ^{あこが}を経て完全な美そのものの **a** へと向かわせる愛であるのに対して、アリストテレスの説く真の友愛(フィリア)は、 **b** のために **b** にとっての善を願い、その実践へと向かわせる愛である。他方、『新約聖書』における愛(アガペー)とは、第一に、無条件にすべての人に与えられる無償の神の愛のことであり、次いで、それによって引き起こされた人間による **c** への愛を意味する。

- | | | | | | | |
|---|---|-----|---|-------|---|-----|
| ① | a | 観 想 | b | 親しい人 | c | 自 己 |
| ② | a | 創 造 | b | 親しい人 | c | 他 者 |
| ③ | a | 観 想 | b | 親しい人 | c | 他 者 |
| ④ | a | 創 造 | b | すべての人 | c | 自 己 |
| ⑤ | a | 観 想 | b | すべての人 | c | 自 己 |
| ⑥ | a | 創 造 | b | すべての人 | c | 他 者 |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 9	19	③	2

2013 年追試

問 1 下線部 a に関連して、エロースを賛美した宴会を舞台とする作品を著した人物として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 12

- ① ソクラテス
- ② プラトン
- ③ ヘシオドス
- ④ ホメロス

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 1	12	②	2

2011 年本試

問 1 文章中の に入る語句として正しいものを，次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

プラトンは、『』において，魂は死とともに霧散するのではないかという不安の声への応答として，魂が不死であることの証明を試みた。

- ① クリトン
- ② ニコマコス倫理学
- ③ イリアス
- ④ パイドン

問 3 プラトンが魂について論じた内容として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 人間の魂は死後に肉体から解放されてはじめてアイデアを見ることになるとし，アイデアへの憧^{あこが}れ（エロース）が哲学の原動力であると論じた。
- ② 人間の魂は生まれる以前にアイデアを見ていたとし，感覚的事物を手がかりとしてアイデアを想起すること（アナムネーシス）ができると論じた。
- ③ 人間の魂を国家と類比的に捉^{とら}え，個々人の魂に正義の徳が具^{そな}わるためには，国家全体の正義を確立することが必要であると論じた。
- ④ 人間の魂を理性，気概，欲望の三つの部分に分けて捉え，これら三部分が互いに抑制し合うことで正義の徳が成立すると論じた。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 1	4	④	2
第 2 問	問 3	7	②	3

2010 年本試

問 4 アイデアに関して、プラトンの考え方に合致するものとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

8

- ① アイデアは個物に内在する真の本質であり、感覚ではなく、知性だけがそれを捉えることができる。
- ② アイデアは生成消滅しない真の存在であり、感覚ではなく、知性だけがそれを捉^{とら}えることができる。
- ③ アイデアは個物に内在する真の本質であり、感覚は知性の指導のもとにそれを捉えることができる。
- ④ アイデアは生成消滅しない真の存在であり、感覚は知性の指導のもとにそれを捉えることができる。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 4	8	②	2

2009 年追試

問 5 プラトンはこの世における知識の獲得を想起説によって説明している。その想起説についての記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

9

- ① 知識の獲得とは、この世を去る際に身体から解放された魂が、この世で起きたことをアイデアを通して想い起こすことである。
- ② 知識の獲得とは、この世を去る際に身体から解放された魂が、自分は何も知らないという無知を想い起こすことである。
- ③ 知識の獲得とは、この世に誕生する際に身体に閉じ込められた魂が、不動の動者である神を観想によって想い起こすことである。
- ④ 知識の獲得とは、この世に誕生する際に身体に閉じ込められた魂が、もともと見知っていたアイデアを想い起こすことである。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 5	9	④	3

2007 年本試

問 3 文章中の ・ に入れるのに最も適当な組合せを，次の①～⑥のうちから一つ選べ。

プラトンの魂の三部分説によると，怒りの座たる 的部分は，適切な教育を受け， 的部分の指導に従えば，徳ある行為に役立つとされる。

- ① A 理性 B 気概 ② A 理性 B 欲望
③ A 気概 B 理性 ④ A 気概 B 欲望
⑤ A 欲望 B 理性 ⑥ A 欲望 B 気概

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 3	7	③	2

2006 年本試

問 5 プラトンは、洞窟の^{ひゆ}比喻を用いて彼の思想を説いた。その比喻の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 9

- ① 多くの人々は、魂が肉体から解放されるまで、快樂や欲望の束縛から脱することができない。それはちょうど、囚人が洞窟の中に死ぬまで縛りつけられて逃げられないのと似ている。
- ② 多くの人々は、個人的な生活にしか目を向けず、社会的理想を追求しようとはしない。それはちょうど、洞窟の中で生活している人々が、そこでの生活に安住し、洞窟の外に出て理想国家を建設しようとしなないと似ている。
- ③ 多くの人々は、普遍的な真理など存在せず、相対的にしか真理は語れないとする。それはちょうど、人々がそれぞれの洞窟の中でそれぞれの基準で真偽を判断し、その正否に他人は口を出せないのと似ている。
- ④ 多くの人々は、感覚されたものを実在だと思い込んでいる。それはちょうど、洞窟の壁に向かって^{つな}繋がれている囚人が、壁に映った背後の事物の影を実物だと思い込んでしまうのと似ている。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 5	9	④	3

2005 年本試

問 3 プラトンは、魂の三部分の関係に基づいて国家のあり方を説明した。彼の国家についての思想として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

4

- ① 一人の王の統治は、知恵を愛する王による統治であっても、つねに独裁制に陥る危険を^{はら}んでいる。それゆえ防衛者階級も生産者階級も知恵・勇気・節制を身につけ、民主的に政治を行う共和制において正義が実現する。
- ② 統治者階級は、知恵を身につけ、防衛者階級を支配し、防衛者階級は、勇気を身につけ、生産者階級を支配する。さらに生産者階級が防衛者階級に従い節制を身につけたとき、国家の三部分に調和が生まれ、正義が実現する。
- ③ 知恵を愛する者が王になることも、王が知恵を愛するようになることも、いずれも現実的には難しい。知恵を愛する者が、勇気を身につけた防衛者階級と節制を身につけた生産者階級とを統治するとき、正義が実現する。
- ④ 知恵を身につけた統治者階級が、防衛者階級に対しては臆病と無謀を避け勇気を身につけるよう習慣づけ、生産者階級に対しては放縦と鈍感を避け節制を身につけるよう習慣づける。このようなときに正義が実現する。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 3	4	③	3

2005 年追試

問 4 ソクラテスの死に関するプラトンの記述として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

4

- ① ソクラテスは，青年を墮落させたという告発を恥ずべきことと考え，自己の名誉を重んじたために，毒杯を仰いだ。
- ② ソクラテスは，無実の罪で自分を死に追いやろうとするポリスの現状を恥ずかしく思い，抗議のために毒杯を仰いだ。
- ③ ソクラテスは，国法を破ることは不正であり，不正を犯すことは恥ずべきことと考えて毒杯を仰いだ。
- ④ ソクラテスは，友人クリトンまでが「無実の罪で刑に服することは恥だ」と脱獄をせまったことに失望して毒杯を仰いだ。

問 5 プラトンのいう「愛(エロース)」の説明として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

5

- ① 個々の美しいものや善いものを超えて，善美そのものを追い求めようとする情熱のことである。
- ② 異性をひたすら精神的にのみ愛し肉体的な結びつきは徹底的に排そうとする，清浄な情熱のことである。
- ③ 精神的な価値観を共有する者に対して感じる友情のことであり，友のためには死をも辞さない心情のことである。
- ④ 究極的な一者から人間に与えられた愛のことであり，究極的な一者に全面的に帰依する心情のことである。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 4	4	③	2
第 1 問	問 5	5	①	2

2002 年本試

問 4 社会契約説は国家や社会についての代表的な理論の一つであるが、西洋ではそのほかにも様々な国家論，社会論が説かれてきた。次のア～ウの思想を唱えた人物として最も適当なものを，下の①～⑧のうちからそれぞれ一つずつ選べ。アについては に，イについては に，ウについては に答えよ。

ア 家族と市民社会を総合し，欲望の体系である市民社会を克服するのが国家であり，そこにおいて共同体の普遍性と個人の個別性が保持される。

イ 理想的な国家を実現するためには，哲学者が統治者になるか，あるいは統治者が哲学者になる必要がある。

ウ 個人が自己の利益を自由に追求することで社会全体が豊かになるのだから，国家の重要な役割は個人が自由に獲得した財産を保護することにある。

- ① プラトン ② アリストテレス ③ ロック
④ ルソー ⑤ アダム・スミス ⑥ カント
⑦ ヘーゲル ⑧ マルクス

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 4	15	⑦	2
第 2 問	問 4	16	①	2
第 2 問	問 4	17	⑤	2

2001 年本試

問 4 プラトンの主張の記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ
選べ。

6

- ① 真理は、普遍的なものとして客観的に存在するのではなく、判断を下す
個々の人間と事物との相対的な関係に依存する。
- ② 善悪を決定するのは個人の快・不快であり、至高の価値は、公共生活から
退くことによって魂が永続的に安定するところにある。
- ③ 人間の最高の幸福は、理性の純粋な活動によって、個々の事物に内在する
形相のあり方を観想することである。
- ④ 個々の事物は真の实在の影にすぎないが、人間の魂はかつて真の实在の世
界に住んでいたのも、それを想起することで真理を把握できる。

問 1 プラトンの正義についての考えを説明した記述として**適当でないもの**を、次
の①～④のうちから一つ選べ。

11

- ① 人間の魂は理性・気概・欲望の三つの部分からなり、これら魂の各部分が
相互に調和を保つなら、個人にとっての正義の徳が実現される。
- ② 国家には統治者・防衛者・生産者という三つの階級があり、人間はそれぞ
れの資質にふさわしい階級に属するべきである。
- ③ 哲人・軍人・庶民がそれぞれ知恵・勇気・節制いずれかの徳を発揮しつつ
相互に調和し合うことによって、理想国家が実現される。
- ④ 国家の正義と個人の正義は、階級の違いを越えて相互に人間を結びつけ
る契約によって、調和が保たれる。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 4	6	④	3
第 2 問	問 1	11	④	2

2001 年追試

問 2 カリクレスは、次のような議論を展開している。それを踏まえたうえで、カリクレス的な立場に合致する記述として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 3

世の中の大多数の弱者（能力の劣った者）は、強者（能力の優れた者）から自分たちの利益を守るために、他者より多く所有することは不正である、という平等主義的な法律や慣習をつくりだした。しかし、弱肉強食の動物の世界を見ればわかるように、強者が弱者を支配し、より多く所有するのが、自然本来のあり方であり、真の正義である。

- ① 絵の上手な人と歌の上手な人との能力差は比較できないので、各人の優劣は客観的に数値化された学力差によって決めるべきである。
- ② 小学生の徒競走で足の速い生徒にハンディキャップをつけるのは、競争原理の否定につながり、理不尽である。
- ③ 多数決原理を基本とする民主主義であっても、自分の政策を実現するためには「数の力」だけに頼らずに、少数意見にも耳を傾けるべきである。
- ④ プロのスポーツ選手や人気歌手がときに数億円もの報酬をもらうのは、人間の金銭感覚を麻痺させる異常な事態である。

問 6 プラトンが説いたエロースを説明する語句として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 7

- ① 男女間の性的な欲望 ② 自己犠牲的な愛
- ③ 善美なものへの憧れ ④ 快樂主義的な生

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 2	3	②	4
第 1 問	問 6	7	③	2

2000 年本試

問 1 文中の に入れるのに最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

ソクラテスは勇気や正義などについて，それらは一体「何であるのか」と問うていく。その問答を通じて，対話者たちの生き方がさらけ出されることになる。プラトンが描く の類比は，ソクラテスが問うたものが人間のあり方のよさであるとともに，国制のよさでもあることを物語っている。

- ① 家と国 ② 人間のアイデアと善のアイデア
③ 魂と国家 ④ 一人の利益と全体の利益

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 1	1	③	2